

令和6年度 教育目標

(1) 本校の教育目標

ア 基本目標

心身ともに健やかで、思いやりがあり、たくましく生きる人間を育てる。

イ めざす生徒像

- ・自ら学び、深く考え、行動する生徒 【善悪の判断をよく考えて行動する子】
- ・礼儀正しく、思いやりのある生徒 【思いやりのあるやさしい子】
- ・心身を鍛え、生命を大切にする生徒 【命を大切にする子】

(2) 経営方針

一宮市教育大綱に基づき、学校運営協議会を核として、保護者、地域社会、小学校と連携して、「郷土とともに生きる子 ― 自分を大切にする子・人を大切にする子・郷土を大切にする子 ―」を育成する。

- 生き方について自ら考え、生涯にわたって社会的に自己実現できる力を養う
- 職員、生徒、保護者、地域住民が信頼関係で結ばれた学校をつくる。

ア 確かな学力を育成するために

- ・たえず授業改善に努め、「基礎的・基本的な知識や技能」の定着と「真剣な学習態度」を育てる。
- ・言語活動を充実させ、読む力・思考力・判断力・表現力の育成に努める。
- ・学習用タブレット端末の活用を図り、効果的な学習活動および学習支援を行う。
- ・個々の生徒の特性についての理解を深め、特別支援教育およびインクルーシブ教育の充実を図る。

イ 豊かな心を育成するために

- ・ときめき感（自己存在感や充実感）がある「居場所づくり」に努め、いじめの未然防止や不登校対策に取り組む。（ときめく：喜び・期待などで胸がわくわくする。）
- ・道徳の時間の充実や体験活動等を通して、「思いやりの心」を育てる。
- ・キャリア教育や体験活動、読書活動等を通して、「豊かな人間性」を育てる。
- ・情報教育を推進するとともに、情報モラル教育の充実を図る。
- ・地域社会と連携した活動等を通して、「日本の文化と伝統を尊重する態度」を育てる。
- ・自己の個性や能力・適性を知り、「将来の生き方を考えた進路選択能力」を育てる。
- ・持続可能な社会の実現を目指し、SDGsを意識した環境教育を進める。

ウ 健やかな体を育成するために

- ・体育の授業、体育的行事等を通して、心身を鍛え、「たくましい心身と社会性」を育てる。
- ・食育や保健指導等を通して、「健全で健康的な生活を実践する力」を育てる。
- ・安全教育の充実を図り、安全な生活を送るための能力を育てる。

エ 信頼される学校づくりのために

- ・学校運営協議会を核として、開かれた学校をめざし、家庭や地域社会、小学校、その他関係機関等との連携を密にし、相互信頼の上に立った生徒の健全育成に努める。
- ・現職教育の充実を図り、職員としての資質の向上と専門性の確立に努める。
- ・施設・設備の安全管理と防災体制の充実を図り、安心・安全で潤いのある教育環境づくりに努める。

(3) 本年度の重点目標

- 「わかる・できる・身につく」が実感できる授業実践に努め、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。
- 「あいさつをする」「時間を守る」「整理・整頓に努める」を柱に全職員共通理解のもと、職員一丸となって指導にあたる。
- かけがえのない命を大切に、安全に生活できる力を育成する。
 - ・ 交通ルールの遵守と交通マナーの育成を図る。
 - ・ 自転車通学者の列走の徹底を図る。

- ア ① 「めあて」「まとめ」の明示と、「聞く」「話す」「書く」「考える」等の場面を明確にした授業の徹底を図る。
- ② 漢字検定や計算検定の取り組みを強化し、基礎学力の定着を図る。
- ③ 読書活動や新聞活用を推進し、読む力の育成を図る。
- ④ ペア・グループ学習など話し合い活動を授業に取り入れ、協働的な学習を推進する。
- ⑤ ICT機器の活用やプログラミング教育、情報モラル教育等、情報教育の充実を図る。
- ⑥ 現職教育の充実を図り、特別支援教育（一人一人に応じた教育）実践力、カウンセリング能力の向上を図る。
- イ ① 授業をはじめ、学校の教育活動全般を通して「人間関係力」の向上をめざす。
- ② 「聴く」「認める」「ほめる」「自分で決めさせる」姿勢の徹底を図り、生徒とのふれあいや相談活動を充実させ、生徒・保護者との信頼関係を強める。
- ③ 生徒を中心に据えた学校行事や体験活動等の推進を図り、達成感と充実感を味わわせる。
- ④ 道徳の授業や日常の指導、体験活動、保健・安全指導等を通して、自他の生命を尊重する気持ちや規範意識を高める。
- ⑤ 「丹中ライフ」や生活アンケート、相談活動やQ-U検査を通して生徒理解を深め、よりよい人間関係の構築と居心地のいい居場所づくりに努める。
- ⑥ SR（サポートルーム）の機能を活用し、全校体勢で不登校対策を推進する。また、SC、SSW、心の教室相談員、教育支援センターなどと連携し、不登校の早期発見、早期解決に努める。
- ⑦ 生き方指導に重きを置き、3年間を見通した体験活動を中心に、発達段階を踏まえた計画的・継続的なキャリア教育の充実を図る。
- 1年: ゲストティーチャーに学ぶ会（全体会）
- 2年: ゲストティーチャーに学ぶ会（分科会）・マナー講座・卒業生と語る会
- 上級学校調べ・高校の先生の話聞く会
- 3年: 高校の先生による出前授業・体験入学
- ⑧ 図書館ボランティアと協力し、図書館利用の拡充を図る。
- ウ ① 体育祭などの行事やさまざまな活動を通して、規律があり、励ましあえる人間関係の育成とたくましい心身の育成を図る。
- ② 食育と連携した、健康診断、保健指導、健康相談等により、自分の健康を管理する意識や能力の向上を図る。
- ③ 危険予知トレーニングをもとに、自分の命を自分で守る能力を養う。
- エ ① 積極的な学校公開と学校運営協議会だよりや学年だより、学校WEBサイト等の一層の充実を図り、学校の様子を保護者、地域住民に広く発信する。
- ② 小学校での授業の交流、小中合同会議などを通して、小学生にとって中学校を身近なものにする。
- ③ 教員同士で、積極的に授業の相互参観を行い、授業法の向上を図る。
- ④ 生徒・保護者・職員のウェルビーイングの向上を目指し、働き方改革にかかる業務改善に取り組む。